特定非営利活動法人

日本小児循環器学会 理事会 （2013.8－2015.7）

2013 年度第 2 回理事会議事録

日時：2014 年 1 月 19 日（日）14：00～17：00

場所：株式会社メディカルトリビューン 8 階　会議室

出席者（敬称略・五十音順）

理事長：安河内聰

副理事長：角秀秋

理事：市田蕗子、小川俊一、小山耕太郎、賀藤均、鎌田政博、坂本喜三郎、佐地勉、佐野俊二、白石公、住友直方、土井庄三郎、富田英、中西敏雄、丹羽公一郎、檜垣高史、三谷義英、山岸敬幸、山岸正明

監事：八木原俊克

幹事：鮎澤衛、深澤隆治

名誉会員である松尾準雄先生、馬場 清先生、八代公夫先生がご逝去された旨が報告された。

【議題】

１．**開会**：定款 26 条 2 項により安河内理事長が議長となり、開会が宣言された。

理事会成立の確認：定款 27 条 2 項により定足数は理事総数 20 名の 2/3 である 14 名であるが、20 名の出席があり、理事会は成立する旨確認された。

議事録署名人選任：定款 30 条に基づき、富田理事、中西理事が選任され承認された。

２．**前回議事録確認（2013 年 10 月 20 日開催理事会）（資料 1…P1）**

特に意見なく承認された。

３．**各委員会　活動報告・審議事項**

１）移植委員会：（追加資料あり）

白石理事ならびに佐野理事より以下のような報告がなされた。

・全国アンケート調査が引き続き継続中である。小野先生の退職に伴い白石理事が今後まとめていくことになった。

・昨年は 37 例の心臓移植があった。

・小児の移植認定施設の問題では、子ども病院でも認めてほしいという声が多数ある。

・ベルリンハートの施設基準をどうするか、東大の小野先生が中心となり討議している。

・命の授業について、積極的に全国で進めていく。

・小児の移植施設の認定はワーキンググループを立ち上げ、2 年後をめどに厚労省に提言できるようにする。

・臓器提供施設に対するアンケートももう一度行い、施設として前回のアンケート後に臓器提供の体制がどのように進んできたのかを確認する。小循評議委員の施設には回答を義務化したい。

・本年 6 月 12 日に医科歯科大学でドナーアクションの協議会が開かれる。

・移植学会の専門医が少ない。施設基準や施設決定にも影響するので、是非移植委員会専門医を申請できるようまず移植学会に入会してほしい

・小児期に心臓移植を受けた人の予後調査（死亡例、合併症）に協力いただきたい。

２）将来計画委員会：安河内委員長（資料 2…P13）

理事選挙制度立候補制へ手順変更について討議が行われ、以下の意見が述べられた。

・理事選挙は立候補制に移行する。
・投票は 10 名以内の制限連記で行うことは定款通り。
・内科系・外科系の配分をどうするか、選出理事に関しては会員数に応じて内科系・外科系の理事を配分するのはどうなのか。
・選挙理事 10 名のほか推薦理事も 10 名選出されるので、あえて選挙時に枠を決めなくても後で調整できるのではないか。
・定款施行細則の改定には総会出席者の 3/4 の賛成が必要である。
・選挙細則は別に定めるという一条を別枠にしないと改定もできない。

討議の結果以下のことが承認された。

・自薦他薦を問わず、立候補の事由を記載して立候補を届け出る立候補制度となることが賛成多数で承認された。
・第 4 条 3 の「理事選挙は、次条に定める施行内規によって行う。」を「別に定める施行内規によって行う。」と変更し、持ち回りの理事会で文言を定め、次回の総会に諮ることになった。
・選挙理事に関しては内科系と外科系を分けて選出することが承認された。
・内科系・外科系の数の目安については会員数に応じて 7:3 とすることが承認された。

選挙細則については今後文言を考えていくことになった。

３）学術委員会：小川委員長（資料 3…P18）

資料に基づき活動報告会があり、活発に活動していることが報告された。
以下の審議事項が討議され、承認された。

・　遺伝子疫学委員において当該年度に生まれた心疾患患児のデータを収集するため「当該年度の出生児の先天性心疾患　評議員に Duty にして 1 年間のデータを収集する。継続可能であれば継続する。このための Working Group を立ち上げることが承認された。
・　下記 3 つのガイドラインの作成が承認された。
　新規：「学校における AED 管理・運用のガイドライン」（班長：太田邦雄先生）
　新規：「小児期の肺動脈性高血圧の診断と治療に関するガイドライン」
　　（班長：佐地 勉先生）
　改訂：「学校心臓健診の小児心臓肥大の心電図判定基準の改定」
　　（班長：住友直方先生）

3-1）教育委員会：鎌田委員長（資料 4…P20）

本年の総会での教育セミナーの概要が報告され、以下のことが討議されたうえで承認された。

・　会場、会費についての質問があった。
・　学会 3 日目の学会閉会後、A 会場で 200 分の教育セミナーを開催すること。会場は学会会長に用意していただく。参加者からテキスト代を徴収し、諸経費を除いた残額を学会会長に収めることが説明された。
・　会費はこれまで 2 千円であったが、今後検討する。
・

第 5 回日本小児循環器学会教育セミナーアドバンスコースの開催概要が報告された。

・　2 年未満の経験者の参加が多かったが、内容に関する満足度は高く、今後もアドバンスコースでも経験年数を問わないで受講者を募集することにしたい。
・　テキストはスライド原稿を欲しいという意見が多かった。

E-learning に関して
資料に基づき E-learning が実行可能となる方策の検討が発表され、以下の意見があった。
・　メディカルトリビューンによる見積もり概算金額が報告された。
・　金額的には年間 400 人の受講で 200 万程度になる。
・　誰がどのようにかかわるのか。問題を作るのか。
・　生涯教育、専門医取得の単位授与にするのか。
・　専門医試験作成で集めた問題を手直しして、問題とすればよいのかもしれないが、多くの委員会の協力が必要となる。
・　小児科学会では講義を聞いた後で〇×の問題を答えてもらい単位を与える双方向性のシステムを作っている。一つのコンテンツで年間に 500-600 の視聴がある。
・　ワーキンググループを作って対応していかないと無理。
・　小児科学会ではオンラインのために特別に会費は徴収していない。
・　前回の会議では試験委員会、カリキュラム委員会と一緒にやらないと無理だということになっていた。
・　年間 50-80 でスタートして、様子をみながら増やしていくことを考える。
・　教育講座を HP で流すのであれば、視聴後の問題は講演者につくってもらうのか？小児科学会では講演者に問題を作ってもらっていたが、現在は別に問題を作って講演者に確認している。

以上の討議を踏まえて、以下のことが承認された。
・　実際の具体的プランは試験委員会、カリキュラム委員会、教育委員会、制度委員会ともんでもらって、予算も考えて案として出してもらう。
・　E-learning は利用者から料金を取ることにする。

3-2）心血管疾患の遺伝子疫学委員会：山岸委員長（資料 5…P26）
資料に基づき活動が報告された。
・　当該年度の先天性心疾患の数を把握する Working group を立ち上げる。調査は小循の修練施設、評議員全員の施設を対象とする。また日循にも協力をお願いする。
・　修練施設の年次報告の際に答えることを義務化すればよいのではないかという意見も出された。
協議の結果、Working group から原案を出し、理事会に諮ったうえで 7 月の評議委員会にかけることが承認された。

中止された JRPHD のデータは梶野前理事に保管されている。梶野先生に遺伝子疫学委員会委員に再就任していただき、遺伝子疫学委員会の責任の元、梶野先生にデータをそのまま保管していただくことが承認された。

また、多施設共同疫学研究成果の公表時の Authorship の考え方（案）が示され、討議の上承認された。

遺伝子診断を行うにあたってのマニュアルを検討し、倫理委員会と相談し理事会に挙げることになった。

3-3）形態登録委員会 :西川委員長
西川先生が本年 3 月で定年になるので、朴 仁三先生が次期委員長となり、稲井 慶先生が副委員長となることが承認された。

3-4）稀少疾患調査委員会：市田委員長
・　昨年度の調査では、79%の回答率であったこと
・　本年の調査では、新しく Danon 病、Fabry 病と心疾患における Plastic Bronchitis が調査対

象となる。
・　心原性院外心停止に関する調査を調査用紙は別で同時に行う.

以上が報告された。

3-5）小児慢性疾患事業対策委員会：中西委員長

・　診断のマニュアルを作成しているが、2月までには完成する。小児科学会のなかの小児慢性疾患委員会に提出する。
・　ゆくゆくは各都道府県に判定委員会を作り、専門医に入っていただきたい。

以上が報告された。

3-6）用語委員会：（村上委員長）
特に新たな報告はなかった。

4）プログラム委員会：丹羽委員長（資料 6…P30）
資料に基づき活動が報告された。

5）学会雑誌編集委員会：白石委員長（資料 7…P32）
資料に基づき以下のことが報告された。
・　雑誌の発行の費用がかさんでいる現状が報告された。
・　年間の発行数を減らす、電子化の促進、などで経費を削減することで、英文誌発刊するぐらいの費用は確保できる。
・　英文誌を発刊することが是か非かアンケートを施行する
・　アンケートの内容は2月の編集委員会で詳しく協議する

以上の報告に対して、
雑誌の発行回数を減らすことについてアンケート調査を行うことが承認された。
結果は持ち回り理事会に回してもらって協議することとなった。

次に、雑誌の発行形態に対する自由な意見が以下のように出された。
・　財務としては発行回数減に大賛成　発送費用が一番の問題となっている。
・　和文誌を PubMed に載せるように持っていくのか、英文誌を目指して発刊数を増やして PubMed を目指すのか。
・　編集委員会としては、日本だけではなく、諸外国からも投稿を受けて英文誌を年４回発刊して、将来 PubMed 掲載を目指す予定である。
・　和文誌からの Second publication がみな Pediatric International に流れているので、できればこれを阻止したい。
アンケート結果を踏まえて発行の今後の在り方を検討していくことになった。

6）広報交流委員会：中西委員長（資料 8…P40）
最初に資料の差し替えがあった。
以下のような報告と承認があった。
・　今回の学術集会には、AHA から Curt J Daniels（Nationwide Children’s Hospital, Columbus, OH、アイザックの会長、専門は ACHD）、Wolfgang AK Radtke（DuPont MedicalCenter、プログラム委員長、専門はインターベンション）、George Hoffman（Milwaukee、専門は ICU）が AHA 側から推薦された。この 3 人の学会への招待が承認された。
・　AEPC からは Eero Jokinen（今度の AEPC の会長）、Juan Comas（スペイン、外科）、Phillipe Diller（ドイツ）の 3 人の招待が推薦され、承認を受けた。（最終的に AEPC の希望もあり、Diller 先生ではなく、Konrad Brockmeier 先生になっています。）
・　AHA, AEPC, JSPCCS とでジョイントで Exercise をテーマにしたシンポジウムを組むことがプログラム委員会で決定している。Diller、Curt J Daniels と小循からは大月先生と稲井先生の 4

人がシンポジウムの座長を行う。

- 台湾の小児循環器学会から一人ずつ交換プログラム（毎年ひとりずつ）が昨年の理事会で決まっており、一人 1000 ドル支払うことが決定されている。今年の学会に関しては、まだ先方からの応答はない。今後丹羽先生と相談しながら人選と内容を決定していくことが了承された。
- 今回の学会では APPCS との 30 分ぐらいのジョイントを広報交流員会から提案していることが報告された。
- AEPC から昨年若い人の交流プログラムとして、国循と長野こどもが 2 人受け入れた。日本からも 2 人ケルンに研修に行った。報告書を挙げてもらう。今年もそろそろ公募して人選をしていく。受け入れ施設を募集する。評議員施設に受け入れ可能かどうかを問い合わせる。3 月末までにアンケートを取ることになった。
- AEPC と JSPCCS のジョイントの YIA は、10 月が締め切りだったのでどのような応募があったのか蓋を開けないとわからない。応募が少なければ追加で募集する。
- AHA の学会へのセミナー・レクチャーと人選リスト Proposal を資料のように提言している。

HP の改訂について以下の説明があった。

- 改訂は前回の理事会で承認を受けている。
- メディカルトリビューンと協和企画から相見積を取った。
- メディカルトリビューンの見積もりが協和企画より安価になっていたが、メディカルトリビューンの見積もりでは、ページ数の齟齬があったため協和企画より安い見積もりとなっていた。
- メディカルトリビューンにページ数の齟齬を指摘したところ、値段はそのまま（973,665 円）で請け負うことが確認された。
- また、HP 更新費用も年間の亢進が 250-300 ぐらいあることを確認したところ、値段の変更なし（756,000 円）でそのまま請け負うことが確認された。

以上の報告を受けて、メディカルトリビューンと 3 年間の契約を進めていくことが承認された。

７）多領域専門職委員会；安河内委員長

日沼先生との調整がついていないため、また次回の報告としたいとのことであった。

８）学校心臓検診委員会：住友委員長（資料 9…P47）

資料に基づき活動が報告された。積極的にガイドラインを作成してく方針が確認された。

９）専門医制度委員会：富田委員長（資料 10…P48）

9-1）認定委員会

資料に基づき報告事項が報告され、以下の意見が出た。

- 現在専門医制度でメディカルトリビューンと業務委託契約を結んでいるが、他社の見積もりを取ったところ、現在の 5-6 割の値段でよいという会社もあった。しかし、メディカルトリビューンとの業務委託はこればかりではないので、専門医だけ独立させて他社と契約することは慎重になっている。
- 会計担当としては、この規模の学会で、いろいろな委員会があって代わったりもするので、契約を定額制にできないかと問い合わせをメディカルトリビューンに行っているが、まだ回答はないとのことであった。

9-4） 試験委員会：賀藤委員長（資料 11…P45）

承認事項

第四期専門医認定試験結果報告（資料 10…P45）

- 受験者 43 名中 35 名の合格が報告され、合格の承認を受けた。
- 専門医制度付則の改訂の説明があった。

・　現行の制度では修練期間中に複数の修練私鉄、施設群での修練を合算して修練歴とする形となっているが、新しい専門医制度では、専門医としての修練は一つの研修プログラム（一つの研修施設・研修施設群）で完結することが求められる。施設群の間の移動は認められない。

以上の方針から、改訂された付則が提案され承認を受けた。

10）保険診療委員会：賀藤委員長（資料 11…P47）

・　循環器関連健保対策協議会 解散により 67,500 円の返還を受けることが承認された。
・　内保連への参加継続が承認された。

１．薬事委員会：（中川委員長）

２．医療材料・機器委員会：富田委員長（資料 12…P49）

・　＃CP ステント医師主導治験に向けての経過　5 月に症例登録の見込
・　#Nikanen RF ワイヤー（中隔穿刺用）次年度に薬事通過しそう。
・　厚労省、新医療機器使用要件等基準策定事業に申請し採択

３．臨床試験委員会：賀藤副委員長（資料 13…P50）

・　ファロー四徴（など）のインデラール保険適応
・　臨床治験　肺高血圧症治療薬　複数の製剤についての調査：小児治験ネットワークとの連携（都立小児の三浦先生）
・　保険診療状況調査対象施設の選定：理事長と賀藤理事で選定して依頼する

４．内保連担当

・　深鎮静の指針　小児循環器から提言し保険申請可能にして行く。（三浦先生の原案あり）

11）医療安全委員会：檜垣委員長（資料 14…P51）

医療安全セミナーについて

第 50 回小児循環器学会学術総会　（2014.7.3～7.5）

開催予定：　2014 年 7 月 5 日（土曜日）　午後のセッション

講師：自治医科大学医学部　メディカルシミュレーションセンター長　医療安全学教授
河野龍太郎　先生

12）臓器移植委員会：白石委員長

１．臓器移植関連学会協議会担当

２．心臓移植関連学会協議会担当

13）地方会委員会：小山委員長（資料　15…P52）

議題と審議内容：

１．日本小児循環器学会地方会認定審査　　新規　　承認された。

１）新規申請地方会　2 件　どちらも認定する

・北海道キッズハートフォーラム

2012 年度暫定認定であった「北海道発達循環フォーラム」と、認定されていなかった「北海道先天性心疾患研究会」が合併して新たに発足した。

・東北小児循環器懇話会

２）更新地方会　8 件　新規

*会則に特定企業との共催と明示あり。地方会の「独立性」という観点からは、この条項はないことを条件に何れも承認した。

・山梨小児循環器懇話会
・東海川崎病研究会
・西日本小児循環器研究会
・近畿川崎病研究会*
・四国小児循環器病研究会

・愛媛県小児心疾患懇話会*
・高知小児循環器・川崎病研究会
・九州川崎病研究会

３）2012 年度暫定認定　2 件　　下記が承認された。
・浜松小児循環器談話会　＜更新見送り＞参加者数不足のため
・沖縄キッズハート　暫定認定を継続（2012 年開催なし、2013 年は一般演題１題と特別講演１題）
４）その他の審議事項
・ 地方会費が 500 円、1000 円、2000 円、年会費 3000＋参加費 1000 円とばらつきあり。
・ 参加者名簿の提出は、現在の「直近の会」から「3 回分」へとする方がよい。
・ 企業協賛がないと運営が無理で、認定基準に合わなくなっている。
・ そのため地方会委員会規約の改訂について、会費制で運営していれば認定できるように改正した方が良いと思われる。
・ 近く、日本小児循環器学会地方会制度規則（案）とその細則としての地方会委員会規約（案）をメールで回覧し、意見を出し合うこととした。

14）顕彰委員会：三谷委員長（資料 16…P59）
１　高尾賞の選考の実施。応募期間　2014 年 1 月 15 日(水)-4 月 1 日(火)
２　日本循環器学会　小児循環器賞の広報
３　他の顕彰関連の事項を、顕彰委員会の業務としたい
４　新規顕彰の創設（来年度の高尾賞と同時に募集予定）
・ 功労賞の制定：承認された。
　　内科系　１名／年　　表彰盾+副賞
　　外科系　１名／年　　表彰盾+副賞？
・ Case Report Award：承認された。賞金もつける。
　　２名／年　　表彰状+副賞／名

@参考
高尾賞　表彰盾（約 2 万円）+副賞 10 万円　１名／年
YIA　表彰状（4,500 円）+副賞 7 万円　約 2 名／年

15）倫理委員会：土井副委員長
・ 2005 年の倫理指針（石澤理事、八木原理事）をもとに近日中に提案。
・ 学会の倫理指針を提言するが、どのように運用するかは検討しておく。
16）蘇生科学委員会：三谷委員（資料 17…P60）
・資料の内容を報告。
17）利益相反委員会：三谷委員長（資料 18…P82）
・本年の学術集会で COI のスライド（日循見本：資料 19）を掲示することを指示することで、承認された。細則、ガイドラインは次回までに提案。

４．その他　審議事項・報告事項
【審議事項】
１）50 年誌作成委員会(仮称)草案について（資料 19…P85）
50 年誌作成委員会(仮称)草案について了承された。
２）　形態登録委員会委員長退任について
３）　バックナンバー在庫数について：佐地総務担当理事（資料 20…P86）
・　400～500 冊 PDF 化に伴い処分することで承認された。

４）　バックナンバー雑誌販売価格・購読価格について：佐地総務担当理事（資料 20…P86）

・処分する前に、要望があれば 2500 円で購入してもらうことで承認された。

５）オンライン会員管理システム公開について：佐地総務担当理事（資料 20…P86）

・会員番号、年会費納入状況、入会歴、専門医認定番号、認定日、認定期間等が事務局へ問い合わせをすることなく、ご自身でシステムへアクセスするだけで確認することができる。

・データ移行費用については業者負担。

・会員への ID・パスワード通知発送費は会員負担だが、年会費請求書一斉発送時（5 月）に通知を同封する場合は無料。　その方向で承認された。

６）評議員申請書類・履歴書フォーマットについて：佐地総務担当理事（資料 20…P86）

●7 月総会時に評議員資格へ「日本小児循環器学会会員または日本心臓病学会会員であること」を追加することが決定したことに伴う、申請書フォーマットの改訂および履歴書フォーマットの作成について承認。

７）CRS 診療マニュアルへの学会名の記載について

：周産期新生児学会から当理事会へ諮問されなかったが、発行されている。

８）HP 改訂：MT と 協和企画の相見積の結果、　MT へ依頼することで承認された。

９）小児循環器学会　会長候補者プレゼンテーション

日本医科大学　小川俊一先生　2016 年　7/7~9　東京ドームホテル　で承認された。

10）小児循環器学会誌

MT、学会支援機構からの見積：日循などの際にプレゼンテーションしてもらう

11）日循理事への立候補者について：３月に改選。

議長は以上をもって本日の議事を終了した旨を述べ、閉会を宣言した。
以上、この議事録が正確であることを証します。

2014 年 1 月 19 日

議長　　安河内　聰

議事録署名人　　富田　　英

議事録署名人　　中西　敏雄